

09.休憩所 1:大西麻貴+百田有希/o+h



今回見学した〈休憩所 1〉は、ファッション業界のデッドストック生地約 40 種類を用いたテキスタイルの膜屋根が特徴的な施設であった。色や質感の異なる布を一枚ずつ手作業で取り付けすることで、屋根全体に美しいグラデーションが生まれている。風が吹くとテキスタイルがさざなみのように揺れ、透過する光が柔らかく変化しながら空間を包み込む様子は、視覚的に非常に印象的であった。



来場者が忙しい万博会場の中で一息つき、光や風を感じながら体験を振り返ることができる空間が創出されている。

使用されたテキスタイルは、通常建築には用いられない素材であったため、会期中の耐久性や色の変化を検証するために、事前に耐候性および強度試験が実施された。その結果を踏まえ、色味や風合い、ロット数の異なる生地を厳選し、全体として調和の取れたグラデーションとなるよう配置されたことが分かった。

この休憩所は、固く動かないものとして捉えられがちな建築に、風で揺れる屋根やひんやりとしたネット状の床といった動きや触感を取り入れている。視覚、触覚、聴覚、嗅覚といった五感を刺激する設計によって、来場者が誰でも心地よく過ごせる包み込まれる様な空間を目指していることが感じられた。

